



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

ツバル

— 平成 30 (2018) 年度 地域巡回機能回復等推進事業 —
(終了時評価—2019 年 4 月)

事業概要

国名	ツバル
プロジェクト名	2018 年度 FDAPIN VI プロジェクト
実施期間	2018 年 8 月 8 日～2019 年 3 月 31 日
相手国政府覚書署名省庁名及び実施機関	覚書署名省庁：天然資源省 実施機関：天然資源省漁業局

プロジェクト実施の経緯と背景

ツバル政府は、「2016～2020 国家戦略 TE KAKEEGA III」の「天然資源」に関する目標としてツバル天然資源の管理及び持続的利用による社会経済的リターンの最大化を掲げており、水産分野では以下の 8 項目をその具体的内容としている。

- (1) 漁業収入の増大
- (2) 離島漁民の現金収入増大を含む、組織化、管理開発
- (3) 外国漁船乗船のための船員育成
- (4) 漁船オブザーバー
- (5) WCPFC 規則の遵守
- (6) EU 漁業規則の遵守
- (7) 漁獲物衛生基準の確立
- (8) 沿岸漁業保護

また、天然資源省漁業局による「年間業務計画 (Annual Work 2018)」でも「漁業振興と管理」等が計画され、計画では離島を含む全島が対象となっている。



このような戦略や計画の下、同国政府は各種の漁業振興施策を実施しているが、同局が所管する船舶やワークショップ、製氷施設及び地域漁業センター等の水産関連施設は、老朽化に伴う故障や運営管理の不備により本来の機能を発揮することができず、漁業の開発・振興に支障を来している。

このため、ツバル政府は、公益財団法人海外漁業協力財団（以下、「財団」という。）に対し、水産関連施設等の修理・修復及び技術移転並びに漁民組織への指導・助言についての支援要請を行った。

財団は、我が国とツバルとの漁業関係の重要性に鑑み、同国天然資源省の漁業振興策を支援するため、本プロジェクトを実施した。

目標・成果・活動内容等

上位目標	修理・修復対象施設周辺地域の漁業生産が増加し、小規模漁業が発展する。
プロジェクト目標	①水産関連施設が修理・修復され、当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。 ②水産関連施設の管理・運営が改善され、活性化・自立化が促進される。
成果	①漁業局ワークショップの整備及び技術指導 漁業局ワークショップの整備及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。 ②漁業局職員と現地漁業者に対する漁具作製と魚燻製加工の訓練及び助言 漁業局職員及び漁業者に対し、電動リールによるキハダマグロ竿釣り、ソデイカ樽流し漁、離島での曳縄漁具作製の訓練及び助言を行うことにより、新たな漁法が紹介される。また、漁業局職員及び漁業者に対し、離島での魚燻製品製造の訓練及び助言を行うことにより、水産物の加工技術が向上する。
活動	①漁業局ワークショップの整備及び技術指導 スリップウェー用電動ウィンチの交換、ワークショップの動圧換気扇の交換などを実施した。また、カウンターパートに対し整備に係る技術指導を実施した。 ②漁業訓練に対する助言と支援 フナフチにおいて水産物の加工指導（ツナジャーキーの作製）及びソデイカ漁の指導を行い、ヌクラエラエ島にて中層曳縄漁具作製、ソデイカ漁、燻製加工指導を行った。
投入	財団側 1) 専門家 ・ 計画 第1回巡回指導：チームリーダー／漁船機関専門家 1名 漁業普及技術者 1名 2018年10月下旬～11月下旬（28日） 第2回巡回指導：チームリーダー／漁船機関専門家 1名 漁船機関・冷凍機器専門家 1名 2019年2月中旬～3月上旬（約12日） ・ 実績 第1回巡回指導：チームリーダー／漁船機関専門家 1名

	<p>漁業普及専門家 1名 2018年10月25日～11月22日(29日) 第2回巡回指導：チームリーダー／漁船機関専門家 1名 漁船機関・冷凍機器専門家 1名 2019年1月8日～1月19日(12日)</p> <p>・延日数 計画：80人・日 実績：82人・日(計画対比：102%)</p> <p>2)主な資機材 中層曳縄漁具、電動リール、ワークショップ用動圧換気扇、卓上ドリル盤、電動ウィンチ、バッテリーチャージャー、卓上グラインダー、工具、修理資材他</p> <p>3)事業費 予算額 10,053千円 実績額 10,053千円(予算対比：100%)</p> <p>相手国側</p> <p>1)主なカウンターパート</p> <p>①漁業局ワークショップの整備及び技術指導 Foreman for Workshop 1名 2019年1月11日～1月18日</p> <p>②漁業訓練に対する助言及び支援 Counterpart Supervisor 兼 Principal Fisheries Officer 1名 Fisheries Officer 1名 Officer Tuvalu National Adaptation Programme of Action (NAPA) II Project 1名 2018年10月25日～11月22日</p> <p>2)プロジェクト関連予算、土地、施設等 ワークショップ等漁業局施設の電気・水道・電話等の無償提供</p>
--	---

評価事項

◆ 妥当性

1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

本プロジェクトは、ツバルの国家戦略に基づき、漁業局の活動を支援するものであり、妥当と判断される。

2. 協力ニーズ(対象国、対象地域)との整合性

ツバル政府から水産関連施設の修理・修復及び技術移転並びに漁民組織への指導・助言を要請されており、事前調査において漁業訓練に対する助言及び支援、漁業局ワークショップの修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術指導に対する協力ニーズが高いこと

が確認されている。

3. 環境に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトでは、直接環境に影響を与える活動はなく、廃棄部品等の扱いについては適切に行い、常に環境保全に配慮している。

4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトは、水産関連施設の機能回復を図り、その運営・管理に対する助言を行うものである。今回の対象は、漁業局ワークショップが主であり、周辺水域の水産資源に対する負荷を大きくするなどの影響を与えるものではない。また、漁具作製方法の訓練及び助言は、リーフ魚の資源減少に配慮して、外洋性の魚種を対象にした漁業の導入を狙うものである。さらに、水産加工品についても従来の塩乾干しや伝統的な燻製による加工の代替策となるものであり、水産資源に対する負荷は極めて限定的である。

5. その他（プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められてとおりに実行されたか等）

特になし。

◆ 効 率 性

1. 事業費及び実施期間

事業費は予算内に収まり、実施期間はほぼ計画通りとなった。（予算及び計画対比：事業費 100%、実施期間 102%）

2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

資機材及び専門家は、実施計画に従いタイミングよく投入され、プロジェクト活動は計画期間内にすべて完了し、それぞれ期待された機能及び能力を発揮した。

3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

移転技術は、巡回指導及び漁業普及とともに、専門家が事前調査においてカウンターパートの技術水準を見極めた上で指導内容を検討しており、実施に当たっては適切な指導が行われたことから、カウンターパートの水準に適合していた。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

特になし。

5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

漁業局ワークショップの整備及び技術指導に係るカウンターパートは本年度にPNGにおいて財団が実施した製氷機講習会に参加し、技術水準が向上したことからプロジェクトの効率性が一層高まった。

◆ 有効性

1. プロジェクト目標の達成度

① プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：水産関連施設が修理・修復され、当該施設の維持・管理に係る技術が向上する

計画どおり水産関連施設の機能が回復し、また、必要な技術移転が行われ、技術指導によるカウンターパートの基礎知識及び技術レベルは向上したことからプロジェクトの目標は達成された。

プロジェクト目標：水産関連施設の管理・運営が改善され、活性化・自立化が促進される

計画どおり漁業局のカウンターパート及び現地の漁業者に漁具の作成方法、漁法、魚類の燻製加工方法及び水産加工品の製品化に関して指導し、必要な技術移転が行われ、技術指導によるカウンターパートの基礎知識及び技術レベルは益々向上したことからプロジェクトの目標は達成された。

② その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。

2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

① 漁業局ワークショップの整備及び技術指導

期待された成果：漁業局ワークショップの整備及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する

施設の修理・修復を行い、漁業局のカウンターパートに修理・修復に関する技術指導を行ったことにより、技術レベルが向上し、施設の稼働が円滑になった。

② 漁業訓練に対する助言及び支援

期待された成果：漁業局職員及び漁業者に対し、電動リールによるキハダマグロ竿釣り、ソデイカ樽流し漁、離島での曳縄漁具作製の訓練及び助言を行うことにより、新たな漁法が紹介される。また、漁業局職員及び漁業者に対し、離島での魚燻製品製造の訓練及び助言を行うことにより、水産物の加工技術が向上する

漁業局のカウンターパート及び現地の漁業者に漁具の作製方法、漁法、魚類の燻製加工方法及び水産加工品の製品化に関する指導を行ったことにより、新たな漁法が導入され、水産加工品の加工技術も向上した。

◆ インパクト

1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

本プロジェクトの実施により、新たな漁法が導入され、水産加工品の加工技術が高まった他、水産関連施設が修理・修復され、管理・保守に関する技術が向上したことから、プロジェクト目標は達成された。

今後、導入された漁法や水産物の加工法が定着し、ワークショップが安定的に機能すれば、上位目標である修理・修復対象施設周辺地域の漁業生産の増加、小規模漁業の発展に一定の効果を及ぼすとともに、漁業局が策定した年間業務計画に掲げる「漁業振興と管理」の達成にも寄与する。

2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

本プロジェクトの実施により、漁具の作製や漁法に関する技術の移転がなされた。これにより外洋性魚種の漁獲量が増え、漁民の所得が向上することから、対象地域の経済に対する直接的な効果の発現が見込まれる。燻製魚作製技術の移転については離島漁民の首都への輸送手段が様々な制限を受ける中、新たな保存食としての流通が見込まれ、経済に対する直接的な効果の発現が見込まれる。

3. その他（ターゲットグループに対するインパクトや、プロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等）

特になし。

持続性

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

カウンターパートは漁業局の職員で、プロジェクト終了後も引き続き本施設の管理を担当する予定である。

供与された資機材は、漁具の作製、新たな漁法による操業並びにワークショップの稼働及び運営・管理に必要なものであり、プロジェクトを通じてカウンターパートに適切に技術移転されたことから、プロジェクト終了後も有効に活用される。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

本プロジェクトにより施設の機能が強化され、継続的な活動を可能にする人的・物的環境が整備された。また、ツバル政府は外洋性の魚種を対象とした漁業に関する技術の重要性を認識しており、漁業局では今後も漁具の数を増やし、引き続き操業を行う方針としている。さらに、同政府はワークショップ等水産関連施設の継続的運用が同国の沿岸漁業振

興に不可欠であることを認識しており、財政支援を積極的に行うこととしている。従って、本プロジェクト終了後も、この効果は持続的に発揮される見込みである。

3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）
特になし。

以上